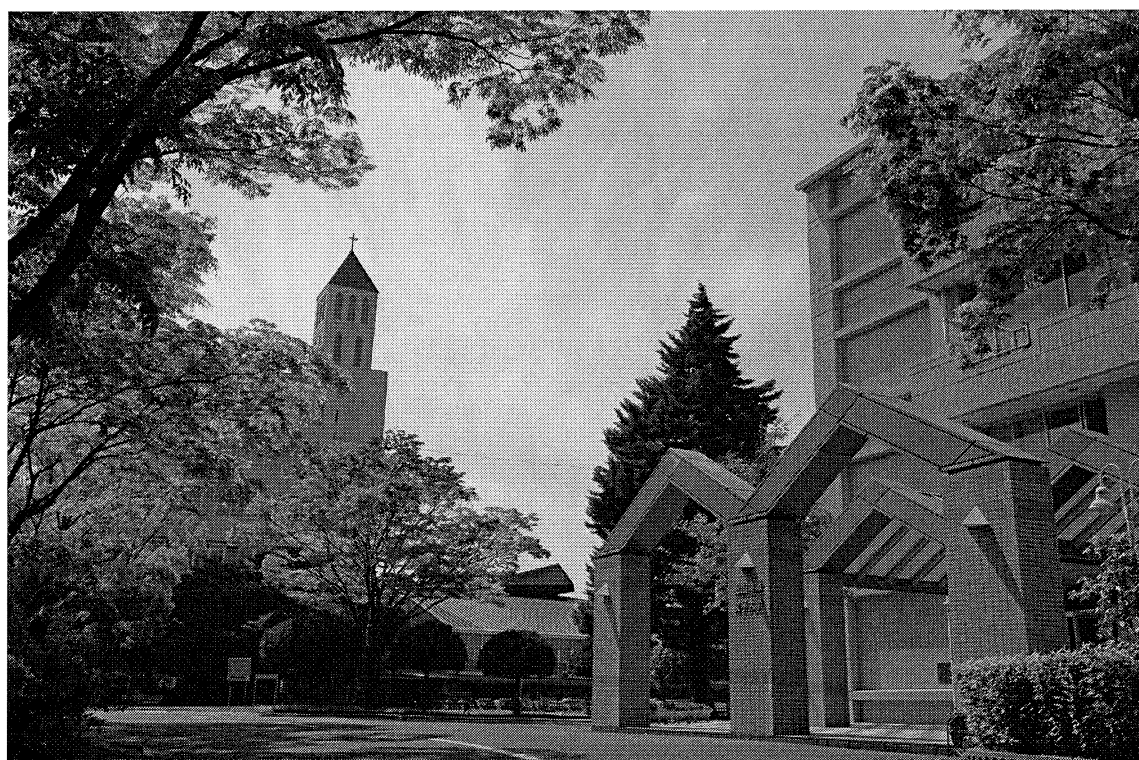


2015 年度
事業報告書



学校法人 松山東雲学園

目次

1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	2
(4) 学校・学部・学科の入学定員、学生数の状況	3
(5) 役員・評議員	4
(6) 教職員の人数	4

2. 事業の概要

(1) 主な事業	6
(2) 大学・短期大学	7
(3) 高等学校・中学校・附属幼稚園	23
(4) 耐震化事業等の概要	29
(5) 自己点検評価	29
(6) その他	30

3. 財務の概要

(1) 2015年度決算概要	31
(2) 経年比較資料	41

4. 監事監査報告書

4. 監事監査報告書	44
------------	----

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

松山東雲学園の建学の精神は、「信仰・希望・愛」であらわされるキリスト教精神です。本学園はこの精神にもとづき、神を畏れ、神による希望に生き、神と隣人を愛する、自立した女性を育成する教育を目指します。

(2) 学校法人の沿革

1886 (明治 19) 年	松山第一基督教会の二宮邦次郎牧師により四国最初の女学校として松山女学校を設立 (9月16日)。
1906 (明治 39) 年	米国伝道局の管理に移されミッション・スクールとなる。
1918 (大正 7) 年	松山女学校の校章を制定
1920 (大正 9) 年	校舎を松山市大街道三丁目二番地二四(旧赤十字病院跡、現高等学校)に移転。
1925 (大正 14) 年	松山女学校の校歌を制定
1932 (昭和 7) 年	高等女学校令により校名を松山東雲高等女学校と改称。
1945 (昭和 20) 年	松山空襲、校舎焼失。キリスト教精神に基づく教育を明確にして再出発。
1947 (昭和 22) 年	松山東雲中学校を併設。
1948 (昭和 23) 年	松山東雲高等学校と改称。
1952 (昭和 27) 年	松山東雲カレッジを設立。
1957 (昭和 32) 年	松山東雲栄養学院を設立。
1964 (昭和 39) 年	カレッジ、栄養学院を発展的に解消し食物科の短期大学として発足。二宮源兵、初代松山東雲短期大学学長に就任。松山東雲短期大学の開学式を行う。
1966 (昭和 41) 年	松山東雲短期大学に家政科、保育科、英文科の3学科を新設。
1967 (昭和 42) 年	松山東雲短期大学の学歌を制定
1968 (昭和 43) 年	松山東雲短期大学に附属幼稚園を設立。
1976 (昭和 51) 年	松山東雲学園創立 90 周年記念式。 松山東雲高等学校創立 90 周年。 愛真館 (チャペル・図書館) 献堂式を行う。
1984 (昭和 59) 年	松山東雲短期大学に秘書科を新設。
1986 (昭和 61) 年	松山東雲学園創立 100 周年記念式。 松山東雲高等学校創立 100 周年。 100 周年記念館の献堂式を行う。
1987 (昭和 62) 年	食物科と家政科を統合・改組して生活科学科を新設。
1988 (昭和 63) 年	米国ボストンの伝統校ラセル大学と姉妹校提携を行い、短期体験留学

	による相互交流を開始。
1989（平成元）年	最新情報処理システムの導入をはじめとした教育研究設備を備え、シンボルタワーを配した校舎D館落成。
1991（平成3）年	生涯学習時代に対応して、松山東雲学園オープンカレッジを開設。
1992（平成4）年	松山東雲女子大学人文学部（人間文化学科・言語文化学科）を開学。岡本道雄、初代松山東雲女子大学学長に就任。
1998（平成10）年	松山東雲女子大学人文学部言語文化学科を国際文化学科に名称変更。
1999（平成11）年	松山東雲女子大学人文学部に人間心理学科を新設。
1999（平成11）年	松山東雲短期大学生活科学科生活環境専攻を生活デザイン専攻に名称変更。
1999（平成11）年	松山東雲短期大学生活科学科生活文化専攻を生活文化学科へ学科昇格。
1999（平成11）年	松山東雲短期大学英文科を募集停止。
2001（平成13）年	オープンカレッジを発展的に解消し、松山東雲エクステンションセンターを開設。
2002（平成14）年	松山東雲短期大学に専攻科福祉専攻を新設。
2004（平成16）年	学生のキャリア形成支援の拠点としてキャリアサポートセンターを開設。
2007（平成19）年	松山東雲女子大学人文学部を人文科学部とし、心理子ども学科・国際文化学科を新設。
2008（平成20）年	松山東雲短期大学生活文化学科を「介護福祉士」養成に特化し、生活科学科介護福祉専攻として改編。
2009（平成21）年	松山東雲短期大学専攻科福祉専攻を廃止。
2011（平成23）年	松山東雲学園創立125周年。 松山東雲短期大学生活科学科生活デザイン専攻を廃止。
2012（平成24）年	松山東雲女子大学開学20周年。
2014（平成26）年	松山東雲短期大学開学50周年。 松山東雲短期大学秘書科を現代ビジネス学科に名称変更。

（3）設置する学校・学部・学科等

- ① 松山東雲女子大学 [開学年月：1992（平成4）年4月]
人文科学部 心理子ども学科 [子ども専攻、心理福祉専攻]
人文科学部 心理子ども学科 国際文化学科
- ② 松山東雲短期大学 [開学年月：1964（昭和39）年4月]
保育科 現代ビジネス学科
生活科学科 [食物栄養専攻、介護福祉専攻]
- ③ 松山東雲高等学校 [開校年月：1948（昭和23）年4月]
全日制課程 普通科
- ④ 松山東雲中学校 [開校年月：1947（昭和22）年4月]
- ⑤ 松山東雲短期大学附属幼稚園 [開園年月：1968（昭和43）年4月]

(4) 学校・学部・学科の入学定員、学生数の状況 [2015(平成27)年5月1日現在]

① 松山東雲女子大学 人文科学部

(単位:人)

学年	心理子ども学科				計	
	子ども専攻 [編入学定員:5]		心理福祉専攻 [編入学定員:5]			
	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	50	55	60	42	110	97
2年	50	49	60	46	110	95
3年	55	48	65	44	120	92
4年	55	60	65	35	120	95
計	210	212	250	167	460	379

学年	国際文化学科	
	定員	現員
1年	—	—
2年	—	—
3年	—	—
4年	—	1
計	0	1

松山東雲女子大学 総計

定員	460	現員	380
----	-----	----	-----

② 松山東雲短期大学

(単位:人)

学年	保育科		現代ビジネス学科		生活科学科				計	
					食物栄養専攻		介護福祉専攻			
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	100	127	70	88	80	92	40	24	290	331
2年	100	100	70	69	80	89	40	20	290	278
計	200	227	140	157	160	181	80	44	580	609

③ 松山東雲高等学校 (普通科)

(単位:人)

	募集人員	現員
1年	140	126
2年	140	86
3年	140	106
計	420	318

(1年生の内、外進生 98)

④ 松山東雲中学校

(単位:人)

	募集人員	現員
1年	50	37
2年	50	31
3年	50	25
計	150	93

⑤ 松山東雲短期大学附属幼稚園 (単位:人)

年齢	学級数	現員
満3歳	1	3
3歳	2	51
4歳	2	66
5歳	2	65
收容定員 現員計	190	185

松山東雲学園 総計

定員	1,800	現員	1,585
----	-------	----	-------

(5) 役員・評議員[2015(平成27)年5月25日現在]

① 役員

・ 理事【定数9人以上11人以内 現員11人】

小西 靖洋(理事長)

棟方 信彦 阿部 正幸 大石 尊 森 日出樹 亀岡 篤 山内 建
永井 鞆江 上林順一郎 塩崎千枝子 平尾 由紀

・ 監事【定数2人 現員2人】

芝 実 烏谷 紀興

② 評議員【定数20人以上24人以内 現員23人】

小西 靖洋 棟方 信彦 阿部 正幸 大石 尊 善本 裕子 森 日出樹
亀岡 篤 飯尾 滋明 中村 治 篠崎 英代 伊藤 浩美 中尾 祝子
田中 瑞恵 松本 由美 永野 昌二 大野 京子 小野 幸代 上林順一郎
益 基 塩崎千枝子 山内 建 平尾 由紀 永井 鞆江

(6) 教職員の人数[2015(平成27)年5月1日現在]

① 専任教員

【松山東雲女子大学 人文科学部】

(単位:人)

	学長	教授	准教授	講師	計
学長	1	-	-	-	1
心理子ども学科	-	9	5	6	20
合計	1	9	5	6	21

【松山東雲短期大学】

(単位:人)

	教授	准教授	講師	計
保育科	3	2	6	11
現代ビジネス学科	7	0	0	7
生活科学科	食物栄養専攻	3	1	6
	介護福祉専攻	0	2	4
合計	14	5	9	28

【松山東雲高等学校・松山東雲中学校】 (単位:人)

校長	教頭	教諭	計
1	2	13	16

契約教員	計
15	31

【松山東雲短期大学附属幼稚園】 (単位:人)

園長	副園長	教諭	計
(兼務1)	(非常勤1)	11	11

②専任職員 (単位:人)

所属	専任職員・嘱託職員(助手含む)
松山東雲女子大学・短期大学	44
松山東雲高等学校・中学校	3
松山東雲短期大学附属幼稚園	0
合 計	47

2. 事業の概要

(1) 主な事業

①特別予算事業

【大学・短期大学】

- ・実習準備室 F A X 新規設置費
- ・炊飯器の購入費
- ・学務システム修正作業費
- ・B 館小会議室水漏れ防止の外壁補修工事
- ・チャペルの暗幕（遮光カーテン）取替工事
- ・奨学生の確定
- ・火災保険料の見直しによる保険料の減
- ・本館南 4 階子ども専攻実習準備室移転に伴う改修工事
- ・D 館エアコン取替工事
- ・桑原キャンパス無線 LAN 整備（配線工事）
- ・B・3・1 教室のリースコンピューターの買取り費
- ・教育文化交流費（海外の協定校訪問旅費）
- ・PCB 処分費
- ・アクティブラーニング教室備品整備費
- ・桑原キャンパスデザイン業務委託料
- ・吊り下げ式モニター撤去工事
- ・PCB 処分方法の変更による処分費用の減
- ・本館南 1 階ロビー照明 LED 化工事
- ・D 館音楽室視聴覚機器整備
- ・しののめハウスエアコン取替工事

【高等学校・中学校】

- ・石垣変位計測業務委託費
- ・PCB 処分費
- ・揚水ポンプ取替費（記念館・ピアス館）
- ・100 周年記念館 2 階会議室照明器具交換工事及び女子トイレ改修工事
- ・100 周年記念館 1 階システム準備室エアコン取替工事
- ・紙折り機・プロジェクターの購入
- ・クローバーホーム教室の整備費（カーテン購入）
- ・記念館ネットワーク設備の改修費
- ・吹奏楽部楽器購入

②耐震対応等事業

【大学・短期大学】

- ・愛真館耐震改修工事の設計・施工費

【高等学校・中学校】

- ・体育館耐震改修工事の設計・施工費

【幼稚園】

- ・新園舎耐震改修実施設計費

③設備関係購入事業

【大学・短期大学】

- ・実習準備室用液晶プロジェクター
- ・短焦点プロジェクター
- ・心理学実験器材等購入費
- ・小型吸引機購入費
- ・手動スクリーン等購入費
- ・認証サーバ購入費 他

【高等学校・中学校】

- ・シューズボックス（24 人用）購入費
- ・教育用パソコン購入費
- ・技術科・家庭科備品購入費
- ・学生・教員用机・イス購入費
- ・楽器購入費

【幼稚園】

- ・ひよこ組教室エアコン工事
- ・ストーブ、いす、くつ箱、机購入費
- ・図書購入費

(2) 大学・短期大学

[1] 教育・研究

① 大学

◇現状の把握と課題について

基本方針は「教育の質の保証」と「学士力の養成」である。「平成 26 年度文部科学省私立大学等教育研究活性化設備整備事業」において「アクティブラーニングのための e ポートフォリオシステム」の申請が採択され、2015 年度から学生ポートフォリオシステム、教職カルテ管理システム、授業評価アンケートシステム、オンライン教育サイト Moodle 2 を教学利用することが可能になり、学生自身の PDCA サイクルが導入された。また同時に GPA による成績評価を導入したことにより、教育の効率化と個々の学生の状況に応じた指導を行うことが可能になった。

今後も大学の教学改革を可能な範囲で進め、教員業務の効率化を図る。これにより、教育・研究の時間的余裕を確保し、教育力を向上する。

現状の教育課程の運営・編成にかかわる諸対応、また短期大学と一体化可能な教務関係業務を検討し、より効率的な教育環境を構築する。

1. 成績認定資料で、GPA 制度導入による効果的な指導體制の確立
(学生ポートフォリオと GPA 制度のより効果的な運用)
2. 2016 年度以降の教育課程にむけた教育内容・方法の改善の検討
 - 1) 単位制度の実質化と CAP 制度の効果的運用
 - 2) 評価制度の明確化と主体的学習の促進
 - ①採点時における成績評価の適正化
〔現状〕成績評価の分布情報の提供による自己啓発 → 成績評価基準の再検討
 - ②GPA 制度の有効活用についての検討
 - 3) 進級制度の再検討(必修科目の履修年次、履修単位数の幅などを含む)
 - 4) 卒業生の質の保証をさらに進める(3 年次の研究計画書の作成・公開など)
3. 短期大学教務部と協力し、より効率的な教務システムの改善を行う。
 - 1) 短期大学教養科目と大学基盤科目について、大学での基礎教育とした構成の検討
 - 2) 大学教育レベルの維持、教育力の向上のために、リメディアル教育の検討

◇達成状況について

2015 年度は文部科学省の補助金申請に絡め、各執行部等に協力を呼び掛け、教学改革を積極的に推進した。

- ・「平成 27 年度私立大学等改革総合支援事業」のタイプ 1「教育の質的転換」、タイプ 2「地域発展」および「平成 27 年度私立大学等経営強化集中支援事業」に選定された。
- ・ e ポートフォリオシステムの導入に合わせ既存の学務システムとのデータ連携を図り、2015 年度から、現時点で一元化された学生情報が活用できるようになった。
- ・ 2015 年度より、学期 GPA、累積 GPA (2015 年度入学生のみ) が導入され、学生指導に活用できるようになった。成績不振学生の基準を「学期末 10 単位、1 年次末 20 単位、2 年次

末 40 単位、3 年次末 80 単位未満、かつ学期 GPA1.0 未満」とし、学期 GPA が採用され、学生面談記録の提出も義務化され、専攻主体の学生指導体制ができた。

- ・ GPA 導入に合わせ、成績評価基準の適正化を図る試みを盛り込んだ。
- ・ 教育課程表で英語・異文化関係科目を「グローバル・コミュニケーション科目」として分離し、両専攻から取得できることを明確化した。
- ・ 卒業生の質の保証を行うため、3 年次に「研究計画書」の提出と公開、4 年次の中間報告会での発表の義務付けを行った。
- ・ 短期大学と共通する教務関連事項については、短期大学教務部と歩調を合わせ「合同教務部会」で協議しながら運営を進めた。

◇2015 年度卒業生数について

前学期卒業生数は心理子ども学科子ども専攻 1 名 計 1 名、後学期卒業生数は心理子ども学科子ども専攻 52 名、心理子ども学科心理福祉専攻 33 名 計 85 名である。

◇2016 年度に向けての課題について

- ・ 2015 年度に導入された「e ポートフォリオシステム」等をより効果的に学生と教員が活用できるように、年間スケジュールを早期に公開する。また支援体制を整え、学生や教員が利用しやすい環境を構築する。
- ・ 卒業生の質の保証として、卒業研究の審査方法や成績評価に第 3 者評価を導入することなどを検討する。
- ・ 教養教育と基盤科目の運営体制を明確にする。同時に、学力レベルの低い学生向けの「リメディアル教育」を可能な部分から開始する。2016 年度は国語テストを入学直後に実施し、入学生の国語能力レベルを確認する予定である。
- ・ 大学の教学改革により、教員業務を効率化し、教育・研究の時間的余裕を確保し、教育力を向上する。

②短期大学

◇現状の把握と課題について

教務部の業務としては、教育課程、授業時間割、授業概要、学籍異動、保護者懇談会、入学前情報発信などがあげられ、従来はこれらの業務を各学科・専攻、関連部署と連携しながら、ミスなく執行していくことが求められていた。しかしながら近年の高等教育を取り巻く環境を勘案すると、短期大学としての特色や社会的使命を再確認し、「教育の質の保証」に関する取り組みを継続して実施することの重要性が高まっている。そのような環境の下、2015 年度においては以下の目標を設定した。

- ・ e ポートフォリオの運用
- ・ GPA 制度の導入と学習成果の公平で客観的な評価制度の導入
- ・ 3 ポリシーと教育理念体系との整合性の確認
- ・ 耐震工事に伴う授業環境の整備

- ・教養科目・基盤科目の見直し
- ・初年次教育実施のための準備
- ・補助金獲得

◇達成状況について

- ・eポートフォリオの運用

今年度からeポートフォリオの運用が始まり、その利用に関するフィードバックが各学科・専攻より寄せられた。これを受けよりよいシステム構築に向け、改善を行っている。
- ・GPA制度の導入と学習成果の公平で客観的な評価制度の導入

GPA制度が導入されたがその運用については学科・専攻により異なる。また、2015年12月3日開催の「パフォーマンス評価導入の実際」と題したFD研修会においてルーブリック評価についての理解を深めた。
- ・3ポリシーと教育理念体系との整合性の確認

2015年12月3日開催のFD研修会においてDPとCPの明示化の方策について他大学の取り組み状況などについて情報を共有した。
- ・耐震工事に伴う授業環境の整備

教室の利用状況を把握し、耐震工事に伴う授業環境整備を行った。
- ・教養科目・基盤科目の見直し

短期大学の教養科目と女子大学の基盤科目のさらなる合同開講に向け検討する予定であったが、女子大学のナンバリング作業が完了してからの取り組みとした。
- ・初年次教育実施のための準備

今年度実施した国語力判定テストは、自宅での取り組みであり入学予定者の国語力を正確に測る手段になっていない可能性がある。国語の基礎学力を向上させるためのプログラム開発は、国語力判定テストの実施方法を検討し、入学予定者のレベルを把握した上で進めていく必要がある。
- ・補助金獲得

「平成27年度私立大学等改革総合支援事業」のタイプ1「教育の質的転換」、タイプ2「地域発展」および「平成27年度私立大学等経営強化集中支援事業」に選定された。

◇2015年度卒業者数について

前学期卒業者数は秘書科1名、生活科学科食物栄養専攻1名 計2名、後学期卒業者数は保育科99名、現代ビジネス学科65名、生活科学科食物栄養専攻76名、生活科学科介護福祉専攻17名 計257名である。

◇2016年度に向けての課題について

2015年度に設定した目標の多くはその達成のための準備段階にあり、2016年度においても継続検討が必要である。

[2] 学生支援

① 学生の心身のサポート

本学は、学生の心身のサポートとして、保健室とカウンセリングルームを設置している。

保健室は、以下のサポートを行っている。

- ・定期健康診断を実施し、結果を個人通知し未健診・再検査者には受診用紙を同封している。
- ・季節ごとの流行している病気に関する情報を周知する。
- ・助産師さんのからだの相談（年6回）、婦人科医師の相談（年2回）

カウンセリングルームは、以下のサポートを行っている。

- ・「心身の健康カード」
- ・「校医による心の相談日」（年6回）
- ・本学の教員や臨床心理士による「個別相談」

② 学生会活動

学生会活動とは、本学学生の自治的・組織的な諸活動をいいます。各種行事・クラブ活動などをはじめとし、学生生活全般を充実した有意義なものにするため、学生自らが組織し取り組む活動です。本学学生はすべて学生会の構成員で、そのことにより様々な権利を有します。学生会主催の行事としては、ウェルカムセミナー（4月）、清涼祭（7月）、学生総会、大学祭（11月）、卒業記念パーティー（3月）などがあります。

③ クラブ活動

一人でも多くの学生が正課外活動に参加し、それぞれの志向性に応じた技術・知識を高めるとともに友情を培い、充実した学生生活を送ることを目標としている。本学では、諸活動で成果を上げた学生に対して、学生表彰制度を設けている。

文化クラブは、清涼祭や大学祭、オープンキャンパス等の学内イベントでパフォーマンスを通して、普段の活動成果を発表している。学外の活動では愛媛県視聴覚福祉センターで行われた「愛顔つなぐ文化フェスティバル」で、しののめバルーンアート・しののめ放送同好会、ダンス部・すういんぐがーるず・邦楽部・書道がーるずと多くのクラブ・同好会が参加し、障がい者との交流を深めた。また、「しののめバルーンアート」は「えひめ花まつり 2015」や「内子町子どもフェスティバル」でのバルーンアートパフォーマンスや児童クラブや幼稚園を訪問しバルーンアートを披露した。

体育クラブは、四国インカレをはじめ、諸大会で練習成果を挙げている。ソフトテニス部は、本年度も愛媛国体強化指定校事業「強化拠点大学」に指定され、四国インカレで団体戦優勝、第62回中国・四国・九州三地区学生ソフトテニス選手権大会団体優勝のほか、個人戦でも数々の好成績を記録した。柔道部は、中国四国学生柔道優勝大会で3人制優勝（8連覇）、5人制4位の好成績だった。バレーボール部は、第50回全国私立短期大学体育大会バレーボール競技で3位入賞を果たした。

また、本学からは3名の学生が「第70回国民体育大会（紀の国わかやま国体）」に出場した。バレーボール1名、ライフ射撃1名、ビーチバレーボール1名。そのうち、本学のバレーボール部の村上さんはデモンストレーション競技として9月13日（日）に開催されたビーチバレーボー

ルに出場し第3位という好成績をおさめていた。村上選手は「アジア U-21 女子ビーチバレーボール選手権大会」日本代表にも選ばれ、準優勝に輝いた。ビーチバレーボールは2017年えひめ国体より正式種目化となり、村上さんの今後の活躍に注目したい。

ライフル・エアピストル射撃競技の篠浦玲子さん(松山東雲短期大学生活科学科食物栄養専攻)は、第15回大亀財団スポーツ賞『えひめ国体特別賞』を受賞した。

2015年度活動したクラブは、以下の通りである。

- ・文化クラブ：すういんぐがーるず(吹奏楽)、邦楽、着装、書道がーるず、茶道などの18クラブ
- ・体育クラブ：バレーボール、ソフトテニス、柔道、バスケットボール、バドミントンなどの8クラブ
- ・同好会：しのめバルーンアート、フットサル、しのめ放送などの10同好会
- ・その他正課外活動：生協学生委員会、国際交流フレンドシップ(留学生との交流活動)



[3] キャリア支援

① 就職支援事業

2015年度の求人先数は前年比48社増加したものの、企業が求めている人財像「自主性・積極性・主体性」、「課題発見能力・解決能力」、「コミュニケーション能力」を充足できていない学生には依然厳しい就職活動に変わりはありませんでした。しかし、多くのキャリア支援プログラム、キャリア支援ガイダンスにより学生を支援した結果、就職率は女子大学が100%、短期大学が99.2%と7年連続で96%以上を確保することができました。

② 科別専攻別就職状況

	学科・専攻	※1 就職率	※2 決定率
女子大学	子ども専攻	100.0%	98.1%
	心理福祉専攻	100.0%	78.8%
短期大学	保育科	100.0%	98.0%
	現代ビジネス学科	98.4%	93.2%
	食物栄養専攻	100.0%	94.7%
	介護福祉専攻	94.1%	94.1%

※1：就職決定者数の就職希望者数に対する割合

※2：進路決定者数（就職決定者数＋進学決定者数）の卒業者数に対する割合

科別専攻別で見た場合、女子大学の「子ども専攻」・「心理福祉専攻」、短期大学の「保育科」・「食物栄養専攻」が就職率100%を達成することができました。しかし、女子大学の「心理福祉専攻」は就職率が100%であっても、決定率については他に比べて伸び悩んでいます。2016年度は「心理福祉専攻」にスポットを当てた活動を考えていきます。

③ 学内ガイダンス・セミナー等の開催

A. 女子大学

入学直後から始まるキャリアプログラムに加え、3年次4月から4年次後期まで続く「キャリア支援ガイダンス」を中心に、基盤科目の「学びの基礎」に始まり、さまざまな支援プログラムを用意しています。また、教学面では「キャリア論」・「ビジネスコミュニケーション」・「くらしの経済学」等の講義を1,2年次から開設し、早い時期からキャリアについて考える機会を提供しています。

B. 短期大学

1年次10月から7回の「キャリア支援ガイダンス」を実施しています。内容は「就職適性検査」・「就職活動のしかた・履歴書の書き方」・「会社説明会・面接について」など多岐にわたっています。できるだけ早い時期に職業観・就職観を確立して就職活動ができるよう支援しています。

④ 求人情報・企業情報の収集

毎月50社以上のさまざまな業種の企業訪問を通じて、企業の求める人財像や企業関連情報の収集などにより、学生と企業とのマッチングを図っています。

⑤インターンシップ研修

学生が在学中に就業体験を行うことを通じて、就業意識の形成や将来のキャリアアップなどを実現しました。また、「大学ではできないこと」を経験することで「大学でしかできないこと」を再認識し、将来に向けた学業についての意欲を高めることなどを図ってきました。

⑥学外機関との連携

ハローワークなどとの関係を強化し、未内定者の就職活動支援のため、学内において相談会を毎月実施しました。

女子大学就職率推移表

(%)

	2010.5.1	2011.5.1	2012.5.1	2013.5.1	2014.5.1	2015.5.1	2016.5.1
女子大学	97.0	97.1	96.5	97.6	96.1	98.9	100.0
全国	91.5	90.9	92.6	94.7	95.2	96.9	-

大学・2015年度業種別就職先一覧

進路決定業種名		進路決定企業名
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料	阿川食品
	輸送用機械器具	新来島どつく
情報通信業		ロジック、全日本地理空間情報収集活用推進 ACA
商業	卸売業	四国建設機械販売
	小売業	フジ、オートエボリューション、マリメッコ 松山店、マルナカ、寺子屋、トイザラス松山店、トヨタカローラ愛媛
金融業	貸金業	いよてつカードサービス
	保険業	朝日生命保険
その他の専門・技術サービス		アギスト
生活関連サービス業・娯楽業		フジ・スポーツ&フィットネス、ベルモニー平安閣グループ
教育・学習支援業	学校	松山東雲学園
	幼稚園	慶応幼稚園、すみれ幼稚園、番町幼稚園・桃山幼稚園、香川短期大学附属幼稚園、晴心幼稚園、北梅本幼稚園、くたに幼稚園、久米幼稚園
	幼保連携型認定こども園	勝愛風の子保育園、認定こども園さくら幼稚園
医療・福祉	医療業・保険衛生	四国がんセンター、西条愛寿会病院
	公立保育所	松山市職員、大洲市職員、伊予市職員、鬼北町職員、松山市職員（臨時）、今治市職員（臨時）、新居浜市職員（臨時）

	保育所	愛光保育園、朝日保育園、飯岡保育園、船橋ハーモニー保育園、風の子保育園、めぐみ保育園・めぐみ第二保育園、都市型保育園ポポラー(タスク・フォース)、ジャックと豆の木園、エイジングウェル、ユーマー保育園たかのこ
	児童福祉事業	えひめこどもの城、松山信望愛の家
	老人福祉・介護事業	リハビリステーションみかん、むつみ会、三幸福社会
	知的障害福祉施設	宗友福祉会、しげのぶ清愛園、まさき育成園、福角会
	その他の社会保険・介護事業	愛媛県社会福祉協議会
サービス業		カネシロ
公務	県	愛媛県職員(臨時)
	市	松山市職員(臨時)

短期大学就職率推移表 (％)

	2010.5.1	2011.5.1	2012.5.1	2013.5.1	2014.5.1	2015.5.1	2016.5.1
短期大学	98.7	96.6	96.7	99.1	96.9	97.9	99.2
全国	88.4	84.1	89.5	94.7	94.2	95.6	-

短期大学・2015年度業種別就職先一覧

進路決定業種名		進路決定企業名
建設業		コラボハウス
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料	一六本舗、寿冷凍食品、ルナ物産、四国明治
	はん用・生産用・業務用機械器具	いうら
	電子部品・デバイス・電子回路	中予精工
	輸送用機械器具	新来島どつく
	その他の製造業	マルウ接着
電気・ガス・熱供給・水道業		愛媛県公営企業管理局松山発電工水管理事務所
情報通信業		LDS、ジェネス
運輸業・郵便業		山内陸送、宇和島自動車運送
商業	卸売業	村上産業、三和鋼管、北四国商事、大一合板商事
	小売業	ハッピーファーマシー、あおぞら薬局、ヤマダヤ、ITX、ポーラ、ネットトヨタ瀬戸内、日産プリンス愛媛販売、ベラディッタ、ワールドストアパートナーズ、ノジマ、オンワード樫山、愛媛ダイハツ販売、松山三越、クロスカンパニー、ネットトヨタ愛媛、コネクシオ、大屋、エグザ

金融業	銀行業	愛媛銀行、伊予銀行
	貸金業	いよてつカードサービス
	その他の金融業	愛媛信用金庫
	保険業	明治安田生命保険
不動産取引・賃貸・管理業		住宅情報館
物品賃貸業		サニクリーン四国
学術研究，専門・技術サービス業		ウエストコンサルタント
その他の専門・技術サービス		松山青年会議所
宿泊業・飲食サービス業		ホテル葛城、松山全日空ホテル、今治国際ホテル、ホテル八千代、タケシカンパニー、ステディークルー、マーチャント・バンカーズ
生活関連サービス業・娯楽業		ベネフィット・ワン、リチウム、モバイルフィット、笹錦食産
教育・学習 支援業	学校	愛媛県公立学校教員（栄養教諭）、東温市職員（臨時）
	公立幼稚園	四国中央市職員、東温市職員、内子町職員（臨時）
	幼稚園	若葉幼稚園、唐子幼稚園、和気学園（和気幼稚園・太山寺幼稚園・みのり幼稚園）、波止浜虎岳幼稚園、青葉幼稚園、菊本幼稚園、ひかり幼稚園、ひまわり幼稚園、石手幼稚園、大護幼稚園、番町幼稚園・桃山幼稚園、育英第二幼稚園、勝山幼稚園
	幼保連携型認定こども園	認定こども園愛媛幼稚園、松山認定こども園星岡、認定こども園エンゼル、認定こども園勝愛幼稚園・勝愛風の子保育園
	その他の教育，学習支援業	ABC Cooking Studio
医療福祉	医療業・保健衛生	久万高原町立病院、恩賜財団済生会今治病院、永井クリニック、カナザキ歯科、わたなべ歯科医院、三瀬歯科医院、辻井循環器内科、よしだ小児科、松友歯科クリニック、みかん歯科クリニック、松山赤十字病院（栄養士）、真光会（真光園・栄養士）、おかだ整形外科（栄養士）
	公立保育所	四万十市職員、松前町職員、伊方町職員、松山市職員（臨時）、宇和島市職員（契約）、大洲市職員（臨時）、伊予市職員（臨時）、今治市職員（臨時）、東温市職員（臨時）
	保育所	宮前保育所、立正保育園、鉄道弘済会西条保育所、えひめ乳児保育園、こどものくに保育園、みかん保育園、虹のそら保育園、牧野保育園、八幡浜市立白浜保育所、古川保育園、こどもの森～こどもの森グループ～、十全保育園、新田保育園、松山隣保館保育園、クオリス（三国本町保育園）、めぐみ保育園、八雲保育園、みどり園保育所、大洲乳児保育所、太山寺保育園、朝日保育園、済生会松山乳児保育園、みなと保育園、松山中央乳児保育園、愛隣保育園、ひよこ保育園、大町保育園、内子保育

		園、尾串保育園（栄養士）、飯岡保育園（栄養士）、富久保育園（栄養士）、未来保育園（栄養士）、宮前保育所（栄養士）、マミーズファミリー（松山市立中須賀保育園）、さかのうえ保育園（保育士・栄養士）、ユーマー保育園たかのこ、都市型保育園ひよこランド、ウィルビィ（ウィルビィバンビーノ）、アイグラン（栄養士）、中川（小規模保育園みその・栄養士）、石井保育園
	児童福祉事業	児童養護施設親和園、さくらんぼ・さくらんぼ2号館、宇和島厚生協会みどり寮、コイノニア協会 松山乳児院、愛媛慈恵会、はびねす福祉会、三愛園
	老人福祉・介護事業	和光会（特別養護老人ホーム和光苑）、恩賜財団済生会松山特別養護老人ホーム、和みの会（グループホーム春うらら）、愛隣園（特別養護老人ホームガラリヤ荘）、クロス・サービス福祉事業部（デイサービス来住）、安寿会、慈強会（松山リハビリテーション病院）、三恵会（やすらぎの郷）、やわらぎ
	知的障害福祉施設	福角会、宗友福祉会、日野学園
	その他の社会保険・社会福祉・介護事業	松山市社会福祉事業団職員、西予総合福祉会、愛媛県社会福祉事業団
複合サービス	協同組合	えひめ中央農業協同組合、西条市農業協同組合
サービス業		イヨテツケーターサービス、日清医療食品四国支店、ジェイコムフードサービス、日米クック、みらいフードサービス、シダックスグループ、メフォス、大王フードサービス、東洋食品、シンセイフードサービス、エームサービスジャパン、一富士フードサービス、LOHAS
公務	県	愛媛県職員、愛媛県職員（臨時）
	市	川崎市職員、西条市職員（臨時）

[4] 図書・学術情報

愛真館耐震工事により、図書館事務室を2015年7月24日～2016年1月31日の間、北館1階に移設して図書館業務を実施した。2016年2月1日に愛真館1階に戻り、アルバイト学生の協力により書架整理などを実施し、3月下旬に図書館の復旧作業が完了した。

① 図書館利用促進

○ ガイダンス

4月～5月にかけて大学・短大の全ての新入学生に対し『新入生図書館オリエンテーション』を実施した。

6月からは適宜『文献検索ガイダンス』を実施し、図書館利用教育を通じて学生への学修支援を図った。

○学生希望図書購入制度

図書館オリエンテーションや読書相談等を利用し、図書購入希望制度の案内促進を図った。

○企画展示

学生への学修支援の一環として、図書館所蔵図書の紹介と利用促進を図るため、定期的に企画展示を実施した。

*充実した学生生活が送れるように新入生を迎える春には「学生生活応援図書」

*前学期の中旬には試験・レポート提出を想定して「レポート・論文の書き方関連図書」

また、附属幼稚園とのコラボ企画として「季節のおすすめ絵本 春」の展示を実施した。

○ブックハンティング

学生が直接書店に出向いて、学生の目線で『図書館におきたい本』を選書するブックハンティングを実施した。(2014年度から継続実施)

○ベストリーダー表彰

年間の図書館所蔵資料多読者を選出し、ベストリーダーとして表彰を実施した。

○『ビブリオバトル』開催への協力

『高等学校ビブリオバトル愛媛県大会』および『ビブリオバトル愛媛県大会代表決定戦』の実施協力を通して、本学図書館の紹介や所蔵図書の充実を図った。

②学術雑誌

毎年、各学科・専攻において購読学術雑誌の見直し選定を実施した。

③愛媛地区共同リポジトリ「IYOKAN」

2011年度から愛媛地区大学図書館協議会参加校で連携している愛媛地区共同リポジトリ「IYOKAN」において、本学の紀要・研究論集等を公開した。

④図書の除籍計画を実施

2015年7月からの愛真館耐震補強工事および図書館内ラーニング commons の設置により、0～3分類の書架が縮小されたことに伴い、不要図書を除籍して書架スペースを捻出する必要が生じた為、約 10,000 冊の不要図書を選別する作業を実施し、除籍図書リストを作成した。

[5]情報化

①情報システム基盤整備

愛真館耐震工事に伴うネットワーク工事を行った。

SINET 4 から SINET 5 への移行が完了した。

会議のペーパーレス化のために、2つの会議室に Wi-Fi アクセスポイントを、1つの会議室に吊り下げ式スクリーンと液晶プロジェクタを設置した。

愛媛 CATV の提供する「えひめ Free Wi-Fi」のアクセスポイントを学内 4 か所（図書館、ピアホール、D-3-1、本-3-11）に設置した。

②教育設備

Moodle、授業評価アンケートシステムの運用を開始した。

休講情報提供用のブログサイトを構築した。

本-3-1、本-3-7、D-5-2、D-5-3 および図書館キャレルデスクの PC を Windows 10 にアップグレードした。

③講習会

Moodle 利用講習会を行った。

スマートフォン等の携帯端末からのメール利用について講習会を行った。

④サーバ更新

事務システム用サーバを 2 台更新した。

サークル活動ブログ (Voice) 用サーバを更新した。

⑤イントラネットのドメイン名変更

将来の gTLD との名前衝突問題を回避するため、イントラネットのドメイン名を、公式ドメインに統一した。

⑥セキュリティ対策

サーバ証明書を更新した。

事務用 PC、情報教室用 PC について、Internet Explorer 11 への移行を完了した。

セキュリティ対策ソフトを最新版に更新した。

[6]社会連携・地域貢献

①松山東雲エクステンションセンター

松山東雲エクステンションセンター (SEC) は、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の持つ教育・研究機能を広く地域社会に開放し、教育サービスを提供することを目的とした生涯学習支援機関である。利用者へのサービスとして託児サービスを行っており、生後 6 カ月～就学前の子育て中の利用者の方も安心して学べる環境を整備している。

○松山東雲エクステンションセンター創立 15 周年記念講演会の実施

2016 年 3 月 7 日当日の参加者は 100 名になり、成功裡に無事終了することができた。この講演会の主たる目的の「生涯教育の発展」、「中予地区を中心とした知の拠点の告知」と「この 15 年間への感謝」と言う観点からでも十分な効果があった。

『松山東雲エクステンションセンター創立 15 周年記念講演会』

主催：松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 共催：愛媛大学医学部

協賛：四国八洲薬品株式会社 協力：オリエンタル酵母株式会社

後援：愛媛県・松山市教育委員会・公益社団法人愛媛県栄養士会

I. 特別講演 「知って賢く利用する～ミルクの食品機能と生活習慣病予防～」

講師 / 信州大学名誉教授 大谷 元氏

Ⅱ. 企業セミナー「食の安心・安全のために“食品分析の必要性和食品分析サービスについて”」講師 / オリエンタル酵母工業株式会社 森本 泰介氏

○公開授業

18歳以上の女性を対象に、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の授業を学生と一緒に学ぶコースがある。(教養・基盤科目から専門科目までの多彩な授業を開放しているが、単位の取得はできない。)

○社会人講座

18歳以上の男女を対象に「資格取得支援、語学、パソコンスキル、暮らし創造、趣味・芸術、子育て支援」の分野に分けて、昼間に限らず夜間や土日も開講し、年齢・性別を問わず受講しやすい環境づくりに努めている。

②社会連携

○連携包括協定

中予の課題解決や地域活性化を目的とした「愛媛県との包括協定」の締結により、久万高原町からミッションを受け、大学1年生全員が「PBL研修Ⅰ」でユニークな活性化案に取り組み、町でも取り入れたいと好評だった。

また、地域産業の振興や教育・文化の発展等の貢献を目的とした「愛媛銀行との連携協力協定」の締結により、愛媛銀行の寄附講座として愛媛銀行・愛媛新聞社との協働授業「キャリア論」がスタートした。大学1年生必修の授業で、先輩女性の話から学生自身が自分のこれからの考え、学びの成果を新聞にして発信するなど、地元企業との新しい連携事業の試みとなった。

○産官学連携

産・官・学で締結した「まつやま笑顔の子育て応援連携協定」の事業として、松山の子育て世帯を応援している。園児とパパ・ママのための情報誌「えんじいな愛媛・松山」に本学教員が子育て相談のアドバイスを行う等、地域に根ざした支援活動をしている。

また、本学の生活科学科食物栄養専攻の学生が、(株)セブンスターとのコラボ商品開発に取り組んだ。去年は弁当を、今年は惣菜を協働開発し、(株)セブンスター全店舗にて期間限定で発売された。

③地域貢献

○桑原地区まちづくり協議会

大学が所在する地元組織「桑原地区まちづくり協議会」に参加している。「桑原地区まちづくり協議会」は、まちづくりの総合計画、行政との協働、地域交流活動、防災・防犯、子どもの安全・非行防止・健全育成、保健・福祉の増進、環境整備・美化、文化・伝統、スポーツ・レクリエーションなど、さまざまな地域協働活動により良好な地域社会の形成および維持を目的とした組織である。

本学は、この組織が開催している毎月の役員会をはじめ、理事会、総会、運営支援委員会や地域行事等に事務局長補佐として出席し、本学の教育活動等の情報を発信・提供するとともに、本学ならではの地域貢献や福祉力向上を図る活動を行う等して、

積極的に地域交流・地域貢献活動を行っている。

[7]入試

①入学者選抜説明会

昨年度は短期大学開学 50 周年記念し学外（東京第一ホテル）で開催したが、今年度は本学（桑原キャンパス）で開催した。全体をⅢ部構成とし、第Ⅰ部入試説明会は 2015 年度入試の概要と 2016 年度入試においての変更点等を説明、第Ⅱ部においては女子大学 高橋圭三教授による講演会「自閉症スペクトラムの子どもたちへの教育的配慮」を行った。講演会終了後は会場をピアホールに移し第Ⅲ部情報交換会を開催した。

第Ⅱ部の講演会は高校現場での教育課題の一つである「発達障害」に関する題材であったこともあり県内高校から 57 名の先生方の出席があった。第Ⅲ部は、高校の先生、本学教職員、本学在学生在が自由に情報交換を行った。

提出頂いたアンケートから「講演会」が好評であったことや在学生の登場、教職員や在学生と話ができてよかったことなどが記載されており、意義深い説明会となった。

県外では高知会場（7 名出席）、四万十会場（4 名出席）を開催した。高知会場は過去参加実績のない複数の高校から参加があった。また説明会終了後、例年どおり在學生保護者懇談会開催し、各会場 3 名の参加があった。

②進学相談会、訪問入試相談会

さんぽう、日本ドリコム、栄美通信、アスミ、ライセンスアカデミー、昭栄広報、JS コーポレーション、キッズコーポレーション、エフォール等の業者媒体を介して例年どおり実施した。会場形式の進学相談会は 42 会場（昨年 45 会場）延べ 517 名（昨年 545 名）、校内形式の訪問入試相談会では 71 校（昨年 63 校）延べ 614 名（昨年 821 名）の参加があった。

③学校見学会・出張講義

学校見学会：5 校【東雲・済美・新居浜南・川之石・今治精華】

※東雲は PTA 見学会あり。

出張講義：9 校【東雲、済美、松山北、松山中央、上浮穴、北条、幡多農業（高知）】 31 講義。

④高校訪問

愛媛県内を中心に 4～9 月前半にかけて訪問した。また、11～1 月に各高校の出願動向を見ながら、訪問校を絞り、学科・専攻別に訪問した（個別対応）。県外は高知、徳島、香川、広島、山口、沖縄の 6 県を訪問した。

また、昨年度から開始した社会人募集に特化した事業所訪問は 9 月、11 月、12 月に実施。定期的な訪問により本学と各施設との関係性を築けた。訪問先は松山市青少年センター、コムズ、ジョブカフェ愛ワーク、ハローワークプラザ松山、愛媛県社会福祉協議会、松山市総合福祉センター、NHK文化センター松山支社、伊予銀行桑原支店、正円寺郵便局の 9 事業所。

⑤オープンキャンパス

5月を皮切りに7月、8月、9月に開催。7月には初試みとして、昨年度までは社会人を対象に行ってきた18:00開始のオープンキャンパスを「ナイトオープンキャンパス」として社会人はもちろん、部活動等でオープンキャンパスに参加できない高校生や保護者を対象として開催した。その他、大学祭、クリスマスにあわせてプチ・オープンキャンパスを開催した。大学祭ではパネル展示や個別の相談ブースを設けているが、今年度女子大学は初企画として「体験コーナー」を設置し高校生が学科・専攻の学びを実際に体験できる場を提供した。3月には1,2年生対象のオープンキャンパスを開催した。参加者数は以下の通りである。

《女子大学》

(単位：人)

	子ども 専攻	心理福祉 専攻	合 計	昨 年
5月23日	11	15	26	30
7月12日	13	12	25	32
7月24日	12	9	21	-
8月8日	49	28	77	-
9月13日	25	9	34	29
3月22日	22	8	30	30
合 計	132	81	213	121

《短期大学》

(単位：人)

	保育科	現代 ビジネス学科	食物栄養 専攻	合 計	昨 年
5月23日	72	42	35	149	136
7月12日	71	30	35	136	153
7月24日	23	12	14	49	-
8月8日	110	54	67	231	-
9月13日	61	31	35	127	200
3月22日	51	22	26	99	133
合 計	388	191	212	791	622

その他、社会人対象オープンキャンパスも例年どおり7月、10月、2月に開催した。

⑥2016年度入試の主な変更点

【大学・短大共通】

試験開催を大学・短大、同一日開催とした。

【短大】

社会人募集において募集定員を定める。

生活科学科介護福祉専攻 募集停止。

⑦2016（平成 28）年度入試の概要

【松山東雲女子大学】

入 試 区 分		人文科学部 心理子ども学科	
		子ども専攻	心理福祉専攻
		選 考 方 法	
指定校推薦入試		面接、出願書類	
公募推薦入試	I 期	小論文（60 分）、面接、出願書類（出願資格：評定平均値 3.0 以上）	
	II 期		
スポーツ推薦入試	I 期	面接、出願書類	
	II 期		
生徒会活動推薦入試			
一般入試	A 日程	○国語（60 分） } 2 科目必須 ○英語（60 分） } ※2 科目の合計点で判定	
	B 日程		
大学入試センター試験 利用入試	A 日程	志願者が受験している大学入試センター試験の科目のうち、①② の 2 科目の得点と出願書類との総合評価で可否を判定します。た だし、「英語」は、リスニングの得点を利用しません。 ①「国語」、「英語」のどちらか高得点 1 科目。 ②①に該当する科目以外の最高得点 1 科目。	
	B 日程		
	C 日程		
特別選抜入試【社会人・帰国生】		小論文（60 分）、面接、出願書類	
AO入試		面談、出願書類	
外国人留学生選抜入試		日本語適性検査、面接、出願書類	

※指定校推薦入試については指定校に直接通知する。

※推薦入試においては調査書を重視し、総合的に判定する。

※センター試験利用入試では個別学力検査等は実施しない。

【松山東雲短期大学】

入 試 区 分			保育科・現代ビジネス学科・生活科学科
			選 考 方 法
推 薦 入 試	特 別 推 薦	指 定 校 制	出願書類、面接
		ス ポ ー ツ 推 薦	
		生 徒 会 活 動 推 薦	
	専願推薦		出願書類、面接、小論文（50 分）
公募推薦			
一 般 入 試	A 日程	出願書類、学力検査（国語）※古文・漢文を除く（60 分）	
	B 日程		
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 利 用 入 試	A 日程	センター試験の科目のうち上位 1 科目 （ただし、現代ビジネス学科においては国語と英語のうち、 上位 1 科目）	
	B 日程		
	C 日程		
AO入試			出願書類、面談
特別選抜【社会人・帰国生】			出願書類、面接
外国人留学生選抜			出願書類、面接

※指定校推薦入試については指定校に直接通知する。

⑧2016（平成 28）年度入試結果

入学者数は女子大学 102 名、短期大学 257 名。詳細は、以下のとおり。

【心理子ども学科 子ども専攻 : 60 名】定員 50 名（充足率： 120%）

【心理子ども学科 心理福祉専攻 : 42 名】定員 60 名（充足率： 70%）

合計 102 名

女子大学 定員 110 名（充足率： 93%）

【保育科 : 108 名】定員 100 名（充足率：108%）

【現代ビジネス学科 : 76 名】定員 70 名（充足率：109%）

【食物栄養専攻 : 73 名】定員 80 名（充足率： 91%）

合計 257 名

短期大学 定員 250 名（充足率：103%）

[8] 広報

① 広告・広報関係

4 シーズン目となるキャッチコピー「Begin+ing 次ののはじまりを、しのめから」をさらに浸透させるため、継続して新聞広告を制作し、学園創立記念日の 9 月 16 日に愛媛新聞に掲載した。2015 年度のテーマは「寄りそう心とともに」。その他、記者発表用のシステムパネルの製作、各種広告・ちらし等も継続し広く地域等に発信した。また、協賛広告、看板表示などは継続して実施した。年度後半には、冊子「松山東雲短期大学開学 50 周年記念の軌跡」を製作し関係者に配付した。

② 東雲文化講演会

「女性教養講座」として 2015 年 10 月 10 日（土）スタディライフ熊本（生涯学習支援事業所）特別顧問の田尻由貴子先生を講師にお迎えした。『愛着のきずなを育む ～妊娠相談からみえてきたもの～』と題し、45 年の看護職としての経験と「こうのとりのゆりかご」との関わりから目のあたりにした今の性に対する実情を問題とし、ご講演いただいた。

(3) 高等学校・中学校・附属幼稚園

[1] 高等学校・中学校

① 学校行事

4 月 1 学期始業礼拝 (4/8)、入学式 (4/9)、新入生オリエンテーション (4//10)、授業開始 (4/10)、生徒会歓迎会 (4/13)、携帯電話安全講話 (4/14-中学、4/21-高校)、PTA 総会・参観日 (4/22)、全校遠足 (4/24)

5 月 家庭訪問 (5/7～6/12)、高 2 中間考査 (5/7～5/11)、中間考査 (中学 5/13～5/15・高校 5/13～5/16)、高校 2 修学旅行 (5/13～5/16)、自転車交通安全講座 (5/19 高校)、学校説明会・公開授業 (5/20)

6 月 生徒総会 (6/2)、愛媛県高等学校総合体育大会 (6/5～6/8)、松山市中学校総合体育大会 (6/9～6/12)、自転車交通安全講座 (6/19 中学)、空気環境測定 (6/10)、第 1 回オープンスクール (6/13)、花の日訪問 (6/15 中学)、四国高等学校総合体育大会 (6/19～6/22)、第 1 回オープンスクール (6/14)、ジレット先生墓参 (6/20)、松山東雲女子大・短大に

- よる説明会 (6/23)、期末考査 (6/29～7/3)
- 7 月 救命救急講習会 (7/2)、防災訓練 (7/3)、浴衣着付教室 PTA(7/4)、性衛生講話 (7/7)、
 中学 1 テーブルマナー (7/14)、高校 3 テーブルマナー (7/15)、三者懇談会 (7/15～
 7/31)、中学 2・3 テーブルマナー (7/16)、1 学期終業礼拝 (7/17)、愛媛県中学総合体
 育大会 (7/21～7/23)、第 2 回オープンスクール (7/25)
- 8 月 第 63 回全日本吹奏楽コンクール愛媛大会 (7/2)、全国高等学校総合体育大会【アーチェ
 リー】(8/6～8/9)、中予地区高校演劇合同発表会 (8/19～8/20)、第 3 回オープンスク
 ール (8/21)、2 学期始業礼拝 (8/27)
- 9 月 体育祭 (9/10)、親父の会奉仕活動 (9/12)、引越作業 (9/14)、創立記念礼拝 (9/16)、
 弁論大会 (9/16)、クローバーデイ (9/20)
- 10 月 中学校教員対象入試説明会 (10/8)、中間考査時間割発表 (10/9)、マドンナ・レシテー
 ションコンテスト(英語暗誦大会)(10/10)、松山市中学校新人大会【バレーボール】(10/14
 ～10/16)、中間考査(中学 10/19～10/21・高校 10/19～10/22 高)、松山市中学校新人大
 会【バドミントン】(10/20)、中学 1-子規記念博物館(10/22)、中学 2-職場体験(10/22)、
 中学 3-紙すき体験(10/22)
- 11 月 門前まつり〔茶道部・ハンドベル部・吹奏楽部・ダンス部〕(11/3)、塾対象入試説明会
 (11/5)、高校 2 大学見学 (11/10)、薬物乱用防止講話 (11/10 中学)、参観授業・保護
 者対象教育課程説明会 (11/12)、入試説明会 (11/14)、アイデアロボットコンテスト
 (11/15)、薬物乱用防止講話 (11/17 高校)、クリスマスツリー点灯式 (11/17)、期末考
 査時間割発表 (11/20)、愛媛県高校総合文化祭 (11/20～11/22)、全日本バレーボール
 高等学校選手権大会愛媛県代表決定戦 (11/22～11/23)、期末考査 (11/27～12/2)
- 12 月 空気環境測定 (11/3)、中学救急救命講習会 (12/5)、中学 3 修学旅行説明会 (11/5)、ア
 イデアロボットコンテスト中四国大会 (12/7)、性衛生講話 (12/8 中学)、高校 2 進路
 説明会 (12/8)、空気環境測定 (12/9)、クリスマスコンサート(12/14)、高校 1 テーブ
 ルマナー (12/15)、高校 1 秘書検定講座 (7/15～12/16)、三者懇談会 (12/15～12/18)、
 2 学期終業礼拝 (12/18)、クリスマスページェント (12/18)、中学入試前日程 (12/23)
- 1 月 3 学期始業礼拝 (1/8)、ホームカミングデイ (1/10)、中学生バレーボール新人大会中予
 地区予選 (1/10)、高校推薦入試 (1/14)、中学入試後日程 (1/23)、大学入試センタ
 ー試験 (1/16～1/17)、高 3 学年末考査 (1/26～1/30)、演劇新人大会 (1/31)、
- 2 月 高校一般入試 (2/2～2/3)、中学入学者説明会 (2/11)、中学スプリングフェスティバル
 (2/13)、PTA 役員会・送別会 (2/13)、学年末考査 (2/22～26)
- 3 月 高校卒業式 (3/1)、高 2 テーブルマナー (3/3～3/9)、中学 3 修学旅行 (3/3～3/8)、四
 国高校バレーボール新人大会 (3/12～3/13)、中学修了式 (3/17)、3 学期終業礼拝 (3/18)、
 高校入学者説明会 (3/19)、全国私立高校男女バレーボール選手権大会 (3/22～3/25)、
 選抜高校女子サッカー大会「めぬまカップ」 in 熊谷 (3/25～3/29)

②学習指導

学習指導として、一人ひとりの能力を引き出すきめ細かな学習指導を過年度より継続して行っ
 ている。中学校では、中学 3 年間の内容を確実に定着させる指導を徹底している。高等学校では、

特進コースと進学コースがあり、特進コースでは、質の高い授業で国公立大学・難関私立大学を目指している。進学コースでは推薦入試や松山東雲女子大学・短期大学の内部進学などを目指している。具体的施策として①研究授業・授業研究の制度化、②管理職による授業参観、③スクールアドバイザーの積極的活用、④生徒による授業評価の活用（年2回）、⑤保護者による定期的な授業参観日の設定（中学）を行った。

また、本校独自の学習プログラムとして、全国の学習塾や予備校で利用されている「個別学習システム」eトレの導入、学期に1回程度国数英のテストを実施するラーニングテストの導入、下校時刻後の自習室の利用（中学生：午後8時まで、高校生：午後9時まで）、松山東雲女子大学および松山東雲短期大学との高大連携による秘書検定取得プログラムや出張講義（高3進学コース）を行い、学習効果を高めている。

③進路指導

進路指導として生徒一人ひとりとしっかり向き合い、生徒の希望する進路や将来の夢の実現のため指導を行っている。日頃の受験対策指導に加え、長期休業期間においては、受験対策特訓やセンター試験対策などを行っている。

2015年度の主な実績は以下のとおりである。

【国公立大学】

愛媛大学（5）、島根大学、高知大学、高知工科大学

【私立大学】

青山学院大学、国際基督教大学、東京女子大学（2）、明治学院大学（3）、東京工芸大学（2）、城西国際大学、愛知大学、びわこ成蹊スポーツ大学、同志社大学、近畿大学、大阪総合保育大学、大阪芸術大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学（2）、広島文教女子大学、四国大学（2）、長崎国際大学（2）、松山大学（8）、聖カタリナ大学、松山東雲女子大学（19）

【私立短期大学】

青山学院女子短期大学、神奈川歯科大学短期大学部、関西外国語大学短期大学部、四国大学短期大学部、松山短期大学、松山東雲短期大学（14）

④部活動の実績

本校ではバレーボール部、サッカー部、アーチェリー部、ゴルフ部、新体操部、ダンス部、美術部、ハンドベル部、演劇部、吹奏楽部など活発に活動している。

2015年度部活動成績は以下のとおりである。（大会名、開催日、結果）

【中学バレーボール部】

- ・第69回松山市中学校総合体育大会（2015/6/11）優勝

【高校バレーボール部】

- ・第69回愛媛県高等学校総合体育大会（2015/6/8）準優勝
- ・第17回四国私立高等学校バレーボール選手権大会（2015/6/28）優勝
- ・国民体育大会第36回四国ブロック大会（2015/8/23）少年女子 優勝（高3生2名参加）

国民体育大会出場

- ・愛媛県高等学校新人大会（2016/2/14）準優勝 四国大会出場（2016/3/12 松山市） 3位
- ・全国私立高等学校バレーボール選手権大会（2016/3/22～25 東京都・町田市）

【高校サッカー部】

- ・第69回愛媛県高等学校総合体育大会（2015/6/7）優勝 四国大会出場（2015/6/20 松山市）
- ・第69回愛媛県高等学校総合体育大会（2015/6/5）で5年連続優勝表彰

【中学アーチェリー部】

- ・第18回中日本中学生アーチェリー大会（2015/5/10） 30・30m部門 中2優勝
18・18m部門 中1優勝
- ・愛媛県中学高等学校アーチェリー選手権大会（2015/11/15）70mラウンド 中3優勝

【高校アーチェリー部】

- ・第69回愛媛県高等学校総合体育大会（2015/6/7）団体準優勝
個人 奥村佳子 優勝
- ・全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技（2015/8/8）個人 奥村佳子 優勝
- ・第35回四国地区ターゲットアーチェリー選手権大会（2015/9/13）優勝
- ・第70回国民体育大会アーチェリー競技（2015/9/27～29）少年女子個人 奥村佳子 優勝
少年女子団体 第3位
- ・愛媛県高等学校室内選手権大会（2015/12/13）個人 優勝

【中学美術部】

- ・第48回受信環境クリーン図案コンクール（2015/10/1）NHK会長賞
- ・「みきゃん」で発信！愛媛の魅力絵画コンクール（2015/12/17）ハツラツ愛顔のみきゃん大賞最優秀賞
- ・えひめこども美術展（2016/1/9）特選9作品（6名）

【高校美術部】

- ・明るい選挙啓発作品審査ポスターの部（2015/9/15）優秀
- ・県民文化祭・第64回秋季県展（2015/10/11）6名
- ・第29回愛媛県高等学校総合文化祭リーフレット原画（2015/11/20）優秀

【高校ハンドベル部】

- ・第29回愛媛県高等学校総合文化祭 器楽・管弦楽部門（2015/11/21）優秀

【演劇部】

- ・第29回愛媛県高等学校総合文化祭 演劇部門（2015/11/22）演題「タマゴの勝利」努力賞

【吹奏楽部】

- ・第63回全日本吹奏楽コンクール愛媛県大会高等学校B部門（2015/8/2）金賞
- ・第39回アンサンブルコンテスト愛媛県大会中予地区予選（2015/12/24）金管7重奏 銀賞
木管6重奏 銀賞

【その他】

- ・第13回えひめスポーツ俳句大賞俳句部門ジュニアの部（2015/3/21）銀賞
- ・愛媛経済同友会美しいまちづくり賞 都市景観部門（2015/5/19）「学校正門」受賞
- ・全国高等学校ビブリオバトル2015愛媛県大会（2015/7/25）第3位
- ・第32回マドンナ・レシテーションコンテスト（2015/10/10）優秀賞
- ・第28回姫路独協大学 高校生英語スピーチコンテスト（2015/10/18）第2位

- ・第14回高校生英語スピーチコンテスト（2015/10/25）優良賞
- ・語り伝えたい 美しい日本語コンテスト 高等学校の部（2015/11/1）優秀賞
- ・第6回えひめ禁煙推進フォーラム 愛媛健康（県高）クイズ選手権（2015/11/8）優勝
- ・中学生創造ものづくり教育フェア・創造ロボットコンテスト愛媛県大会 基礎部門（2015/11/15）
審査員特別賞 中四国大会出場（2015/12/6 鳴門市）

[2]附属幼稚園

本園は、1968年（昭和43年）に開園し、47年を迎えます。それ以来、一人一人の幼児が、その子らしく生活し、同年齢だけでなく異年齢の幼児とさまざまな出会いをしながら「自分で遊びを見つけ、自分で判断し、自分で行動する」幼児を育てることを目指して取り組んできました。また、短期大学、女子大学の実習の場であり、学生と共に学び合い、より良い幼稚園教育のあり方の追求と、その実践に努めています。2015年度には204名の園児が与えられましたが、新制度の動向を踏まえつつ、さらに保護者や地域のニーズに応えられ信頼が得られるよう本年度を振り返り、次年度の保育に活かしていきます。

【主な取り組み】

①新園舎建築に向けて

本園の新園舎建築に向けて、幼児が遊び生活する場にふさわしい園舎について、園内での話し合いを重ね、幼稚園施設検討委員会において検討してきました。駐車場確保等についても施設検討委員会と連絡をとりあい基本設計が出来つつあります。幼児の命を預かる園舎が安全な場であるようにと新園舎建築に向けての準備を進めていきます。

現在の園舎は、「古くてもこの雰囲気が好きです」と多くの保護者の声が届けられています。卒園児は、「変わってないですね」となつかしそうです。長い廊下や土間は、園庭と保育室をつなぐ場であり、幼児たちの出会いの場として有意義な場となっています。感謝の会を計画したいと願っています。

②桑原キャンパス中庭での運動会

チャペルの改修のため、運動会を中庭で開催しました。他の施設も検討したのですが、日頃、子どもたちがお弁当を食べたり、走ったりしている場所の方が、よいということ、移動に時間がかからないなどの理由から中庭となりました。保護者の方々や桑原キャンパスの皆さんのご協力をいただき、心配していた応援のしにくさも交替しながらスムーズに行われました。次年度は、敬老席等を工夫して実施したいと考えています。

③研修会の開催

10月21日、私立幼稚園教育研究大会の公開保育と協議会が本園で開催され、108名の先生方をお迎えしました。女子大・短大の先生方にご協力いただき、よき学びの機会を持つことが出来ました。「子どもの世界が大切にされていますね」「生き生きとした子どもの表情に驚きました」「温かい雰囲気でした」など一人一人からメッセージをいただきました。東ブロックの8園が話し合ってきた研修会、参加者一人一人が話せるようにしようという取り組みでした。参加者

から「もっと話し合いたい」という声が聞かれました。テーマ「一人一人の子どもの生活と遊びを育み保育実践を育む」を考えたとき保護者に幼稚園が目指す保育を理解し受け止めていただいているからこそ子どもの世界が創られていくことを再確認させられました。園の保育を公開すること、園内研修を行うことは、保護者に子どもの育ちを伝えるために大切であり、継続して取り組んでいきたいと考えています。

④お泊まり保育

7月17・18日に年長の子どもたちが、家庭から離れて、夜の幼稚園で眠る経験をするのです。家庭外で泊まる経験がない幼児にとっては、初めての経験で、涙がでる場合もありますが、友達や担任の傍で眠り、目覚めた朝のご家族の迎えはうれしそうです。「眠れたよ」とのうれしさが手に取るようにわかります。朝食は保育者の手作りです。味噌汁、おにぎり、焼きたてのパン。園庭で収穫したトマトやキュウリ、スイカに牛乳、ジュース。保護者にとっても、離れた子どものことが気になり眠れなかったけれど、よい経験になったとのこと。次年度も7月20・21日に行います。

⑤夕涼み会

夏の日の一日を楽しめるように、子どもを通しての家族のつながりと参加者の親交を深めるため8月21日に行いました。生協のカレーや唐揚げ、そうめん、スイカ。次年度も8月22日の夕方から実施するよう進めています。

⑥実習生を迎えて

2校から中学生の職場体験や女子大・短大生の実習指導が5月から2月まで行われました。3月には、女子大・短大の主催で次週反省会を行い次年度の日程調整等が行われます。現在、日程が決まっているのは、次年度も短大保育科2年、第一次5月16日から27日の2週間、第二次10月7日から21日の2週間です。

⑦入園見学説明会

幼稚園の情報を園の見学をしていただきお伝えできるよう日程を3日間用意している。幼稚園選びをしている保護者にとって園の方針や特色について理解をしていただくためです。その際、保護者の体験談を聞かせていただくことは、より幼稚園を身近に感じるようです。保護者の方々が主体的に参加してくださるので、次年度もご協力をお願いしたいと考えています。

入園案内やホームページ作成の工夫など広報に取り組んでいきます。

⑧カレー、おもちつき、ちらし寿司

11月、収穫感謝祭礼拝に持ち寄った野菜を、地域の郵便局やガリラヤ荘に届けます。その材料で、カレーをつくり、野菜を切りぐつぐつ煮える様子を見つ、炭火をうちわであおぎ、火を強めます。カレーのできあがり。短大・女子大の先生方をご招待します。たっぷりの野菜のカレーは、ひと味違うおいしさのようです。

1月には、お餅をつきます。きなこやのりを巻いたり、あんこ餅を丸めたり、杵でついたりしま

す。長く伸びるのでびっくりしたりしますが、おかわりをしています。

3月にはちらし寿司をお母さんたちが作ります。春が来たということ、皆で食べることによって感じているようです。お替わりをする子どももいます。季節を感じ匂いや感触を味わう経験はこれからも直接経験として欠かせません。ご家庭と連絡を取り合って食べられない子どものことを配慮しながら次年度も取り組んでいきます。

(4) 耐震化事業等の概要

[1] 桑原キャンパス

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

・愛真館の耐震改修工事	2015年度
・E館の解体（跡地に実習棟建築予定）	2016年度（2016年3月～5月）

[2] 大街道キャンパス

松山東雲中学校・松山東雲高等学校

・体育館耐震改修工事	2015年度
------------	--------

以上で大街道キャンパスの耐震化事業は完了。

[3] 松山東雲短期大学附属幼稚園

①幼稚園施設検討委員会設置	2013年度
・幼稚園新園舎の基本設計完成	2014年度
・幼稚園新園舎の実設計完成	2015年度

(5) 自己点検評価

[1] 松山東雲女子大学 自己点検・評価実行委員会

「自己点検・評価実行委員会」を16回開催した。主な業務は下記のとおりである。

① 自己点検・評価活動

前期に各執行部において「現状分析・改善点」を検討したあと、その結果を委員会で集約、検討を行った。その内容に基づいて後期に「自己点検・評価書」の作成に着手し、2月中旬を締切として集約を行い、集約された原稿を「自己点検・評価報告書」第一稿として編集した。新年度の委員会で内容の検討を行い、5月中旬に第二次原稿完成、6月初旬に最終稿完成の予定である。

② 情報収集・共有

9月17日(木)の「平成28年度大学・短期大学機関別認証評価 自己評価担当者説明会」に教員・職員計2名で出席した。その内容にもとづき、9月末の心理子ども学科会で資料配布の上、自己点検・評価活動および報告書作成の目的、日程、要領などについて詳細に報告し、研修に代えた。

③第三者評価受審準備

「日本高等教育評価機構」に平成28年度受審の申請を行い、実地調査の日程を11月16日(水)～18日(金)に決定した。また、受審に向けて自己点検・評価室の整備を行った。

[2] 松山東雲短期大学

○認証評価機関〔財団法人 短期大学基準協会〕

- ・2010(平成22)年3月18日付「適格」と認定
- ・2013年度～2014年度の整理
- ・2015年度～2016年度 自己点検・評価報告書作成

(6) その他

○初年度納付金について

	入学金	授業料	施設設備費	実習等費	教育充実費	合計
女子大学	250,000	650,000	250,000	10,000	0	1,160,000
短期大学						
保育	230,000	550,000	250,000	32,000	0	1,062,000
現代ビジネス	230,000	550,000	250,000	32,000	0	1,062,000
生活科学	230,000	550,000	250,000	37,000	0	1,067,000
高等学校	30,000	312,000	40,000	0	0	382,000
中学校	30,000	312,000	80,000	0	0	422,000
附属幼稚園	25,000	204,000	24,000	0	24,000	277,000

3.財務の概要

(1) 2015 年度決算概要

本学園における財務の基本的な方針は、日本私立学校振興・共済事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」の判定が「A3 段階（経常収支差額が3か年のうち2か年以上黒字）」となることを必達目標としています。2015 年度は、採択制の「私立大学等総合支援事業・私立大学等経営強化集中支援事業等」の補助金等を獲得することが出来たことに伴い当初予算（2015 年 3 月作成）と比べ補助金収入が約 2 億 1 千万円増加し結果として、必達目標を 1 ランク上げ「A2 段階（黒字が 10%以上）」を達成することが出来ました。

2015 年度の決算（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）の概要につきましては、次のとおりです。

①資金収支計算書

2015 年度につきましては、当初予算編成の時点（2015 年 3 月）では収入・支出の確定できない事業計画等（収入では採択制の補助金等や支出では愛真館等の工事費等）があり、12 月と 3 月に補正予算を編成したことにより、予算差異の少ない決算となっております。

資金収支内容を活動区分資金収支に置換えた場合、学校法人の本業である「教育研究活動」における資金収支差額は、約 4 億円の収入超過の決算となっております。また、愛真館・中高体育館の耐震工事等に係る「施設整備等活動」における収入は、施設関係の補助金と施設拡充引当資産の取崩しによる収入等で、この合計から耐震に係る工事費を差し引いた「施設整備等活動」における資金収支差額は、約 8.6 千万円の支出超過の決算となっております。結果として、2015 年度 1 年間に支払資金は約 2 億 8 千万円増加し、前年度繰越支払資金と合計した、翌年度繰越支払資金は約 8 億円となり、年度初めにおいて本学の運営に必要な資金量を十分確保しており資金収支上問題のない決算となります。

②事業活動収支予算の概要

事業活動収支は、学生生徒等納付金や補助金などの教育活動による収入が約 17 億 2 千万円、人件費、教育研究経費などの教育活動による支出が約 14 億 6 千万円、収入から支出を差し引いた教育活動収支差額は約 2 億 6 千万円の収入超過となります。受取利息などの教育活動外による収入は約 2.1 千万円、借入金返済などの教育活動外による支出が約 8 百万円で教育活動外収支差額が約 1.3 千万円の収入超過となります。また、施設整備等の補助金などの特別収入が約 3 億 8 千万円、備品の廃棄に伴う資産処分差額の特別支出が約 30 百万円で特別収支差額は、約 3 億 8 千万円の収入超過となります。

結果として、教育活動収支差額と教育外収支差額を合わせた経常収支差額は約 2 億 7 千万円の収入超過となり、必達目標を 1 ランク上げ経営判断指標「A2 段階」を達成することが出来ました。

経常収支差額に特別収支差額を加算した基本金組入前当年度収支差額は、約 6 億 5 千万円の収入超過となります。また、愛真館、中高体育科に係る基本金の組入れを行った後の当年度収支差額は約 1 億円の収入超過となります。

③貸借対照表

資産の部では、愛真館・中高体育館の耐震工事の実施に伴い有形固定資産が約 6 億 2 千万円増加しました。また、愛真館・中高体育館の耐震工事の実施費用に充てるため、施設拡充引当特定資産の一部取崩しを行ったため特定資産が 5 億円減少となりましたが、資産の部全体としては、約 5 億 7 千万円の増加となりました。

負債の部では、長期借入金を短期借入金に振替えたことと退職給与引当金の再計算を行った結果、固定負債が約 6.7 千万円減少し、流動負債を合わせた負債の部全体としては、約 8.3 千万円減少しました。

純資産の部の内、基本金は耐震工事関係の実施及び施設関係の借入金返済に係る基本金組入を行ったことにより約 5 億 5 千万円増加しましたが、当年度収支差額が約 1 億円の収入超過だったことにより、翌年度繰越収支差額は前年度から約 1 億円減し 35 億 4 千万円となりました。

2015年度

資金収支計算書

2015年 4月 1日から

2016年 3月 31日まで

(単位:千円)

当初予算(約5億9千万円)に比べ、補助金収入が約2億1千万円増加しました。主な要因は、採択制の補助金の獲得による増加が1億4千万円、学生数の増加に伴う経常費補助金の増加が約4.4千万円、耐震工事補助金等の増加が約2.6千万円となっています。

収入の部					支出の部				
科目	予算	決算	増減	備考	科目	予算	決算	増減	備考
学生生徒等納付金収入	1,110,690	1,103,966	6,724		人件費支出	879,862	883,156	△ 3,294	
手数料収入	16,322	16,704	△ 382		教育研究経費支出	363,910	353,936	9,974	
寄付金収入	12,719	12,877	△ 158		管理経費支出	84,391	83,851	540	
補助金収入	808,620	809,082	△ 462		借入金等利息支出	8,038	8,038	0	
資産売却収入	88,383	88,384	△ 1		借入金等返済支出	51,320	51,320	0	
付随事業・収益事業収入	25,241	26,245	△ 1,004		施設関係支出	748,794	749,035	△ 241	
受取利息・配当金収入	23,084	21,539	1,545		設備関係支出	35,551	34,775	776	
雑収入	48,609	48,470	139		資産運用支出	158,054	158,055	△ 1	
前受金収入	230,286	229,630	657		その他の支出	7,713	8,431	△ 718	
その他の収入	855,838	866,977	△ 11,139		[予備費]	0	0	0	
資金収入調整勘定	△ 605,890	△ 616,743	10,853		資金支出調整勘定	△ 4,407	△ 12,930	8,523	
前年度繰越支払資金	517,264	517,264	0		翌年度繰越支払資金	797,940	806,728	△ 8,788	
収入の部合計	3,131,166	3,124,394	6,772		支出の部合計	3,131,166	3,124,394	6,772	

活動区分資金収支計算書

2015年 4月 1日から

2016年 3月 31日まで

(単位:千円)

	科 目	金 額	備 考
教育活動による資金収支	収入		
	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	1,103,966	
	手 数 料 収 入	16,704	
	特 別 寄 付 金 収 入	10,653	
	一 般 寄 付 金 収 入	1,979	
	経 常 費 等 補 助 金 収 入	517,120	
	付 随 事 業 収 入	26,245	
	雑 収 入	48,470	
	教 育 活 動 資 金 収 入 計	1,725,136	
	支出		
	人 件 費 支 出	883,156	
	教 育 研 究 経 費 支 出	353,936	
	管 理 経 費 支 出	83,851	
	教 育 活 動 資 金 支 出 計	1,320,943	
差 引	404,193		
調 整 勘 定 等	3,885		
教 育 活 動 資 金 収 支 差 額	408,078		

(単位:千円)

		科 目	金 額	備 考			
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	245				
		施設設備補助金収入	291,962				
		施設拡充引当特定資産取崩収入	500,000				
		施設整備等活動資金収入計	792,207				
	支出	施設関係支出	749,035				
		設備関係支出	34,775				
		施設整備等活動資金支出計	783,810				
	差	引	8,397				
	調	整	勘	定	等	△ 95,085	
	施設整備等活動資金収支差額		△ 86,688				
小計(教育活動収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			321,390				
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	88,384				
		第3号基本金引当特定資産取崩収入	65,143				
		貸付金回収収入	1,844				
		預り金受入収入	9,294				
		受取利息・配当金収入	21,539				
		その他の活動資金収入計	186,204				
	支出	借入金等返済支出	51,320				
		有価証券購入支出	92,911				
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	65,143				
		仮払金支払支出	148				
		仮受金支払支出	570				
		借入金等利息支出	8,038				
		その他の活動資金支出計	218,131				
	差	引	△ 31,926				
調	整	勘	定	等	0		
その他の活動資金収支差額		△ 31,926					
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			289,464				
前年度繰越支払資金			517,264				
翌年度繰越支払資金			806,728				

事業活動収支計算書

2015年 4月 1日から

2016年 3月 31日まで

(単位:千円)

		科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	1,110,690	1,103,966	6,724	
		手 教 料	16,322	16,704	△ 382	
		寄 付 金	12,474	12,632	△ 158	
		経 常 費 等 補 助 金	516,658	517,120	△ 462	
		付 随 事 業 収 入	25,241	26,245	△ 1,004	
		雑 収 入	47,945	47,806	139	
		教 育 活 動 収 入 計	1,729,330	1,724,472	4,858	
		事業活動支出の部	事業活動支出の部	人 件 費	862,519	866,708
教 育 研 究 経 費	518,237			511,307	6,930	
管 理 経 費	85,778			84,722	1,056	
教 育 活 動 支 出 計	1,466,534			1,462,737	3,797	
教育活動収支差額			262,796	261,735	1,061	
教育活動外収支	事業活動収入の部 事業活動支出の部	受 取 利 息 ・ 配 当 金	23,084	21,539	1,545	
		教 育 活 動 外 収 入 計	23,084	21,539	1,545	
		借 入 金 等 利 息	8,038	8,038	0	
		教 育 活 動 外 支 出 計	8,038	8,038	0	
		教育活動外収支差額			15,046	13,502
経常収支差額			277,842	275,236	2,606	

(単位:千円)

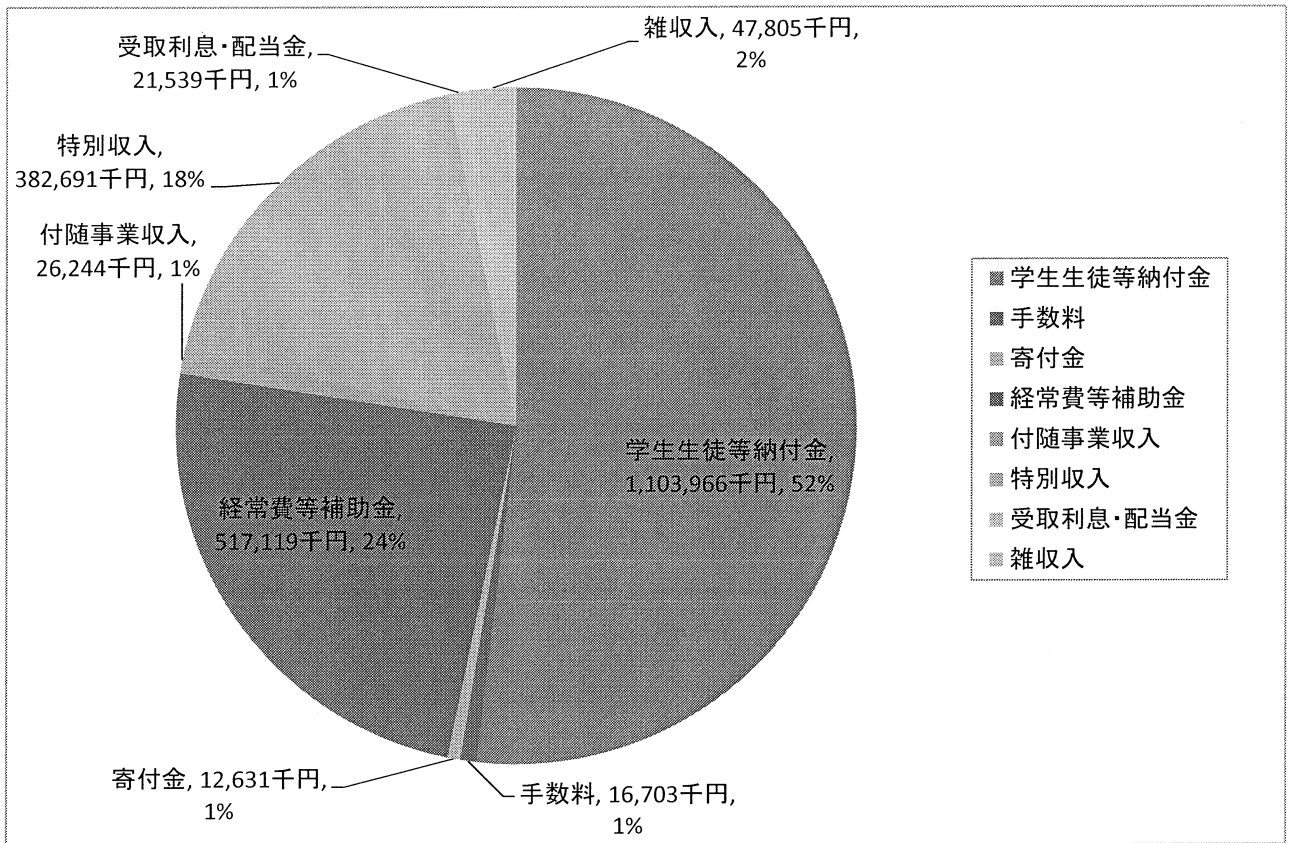
		科 目	予 算	決 算	増減	備考
特別収支	事業活動収入の部	資 産 売 却 差 額	88,383	88,384	△ 1	
		そ の 他 の 特 別 収 入	292,207	294,308	△ 2,101	
		特 別 収 入 計	380,590	382,691	△ 2,101	
	事業活動支出の部	資 産 処 分 差 額	0	308	△ 308	
		特 別 支 出 計	0	308	△ 308	
			特別収支差額	380,590	382,384	△ 1,794
〔 予 備 費 〕			0	0	0	
		基本金組入前当年度収支差額	658,432	657,620	812	
		基本金組入額合計	△ 560,917	△ 556,198	△ 4,719	
		当年度収支差額	97,515	101,422	△ 3,907	
		前年度繰越収支差額	△ 3,650,492	△ 3,650,492	0	
		基本金取崩額	0	0	0	
		翌年度繰越収支差額	△ 3,552,977	△ 3,549,070	△ 3,907	

(参考)

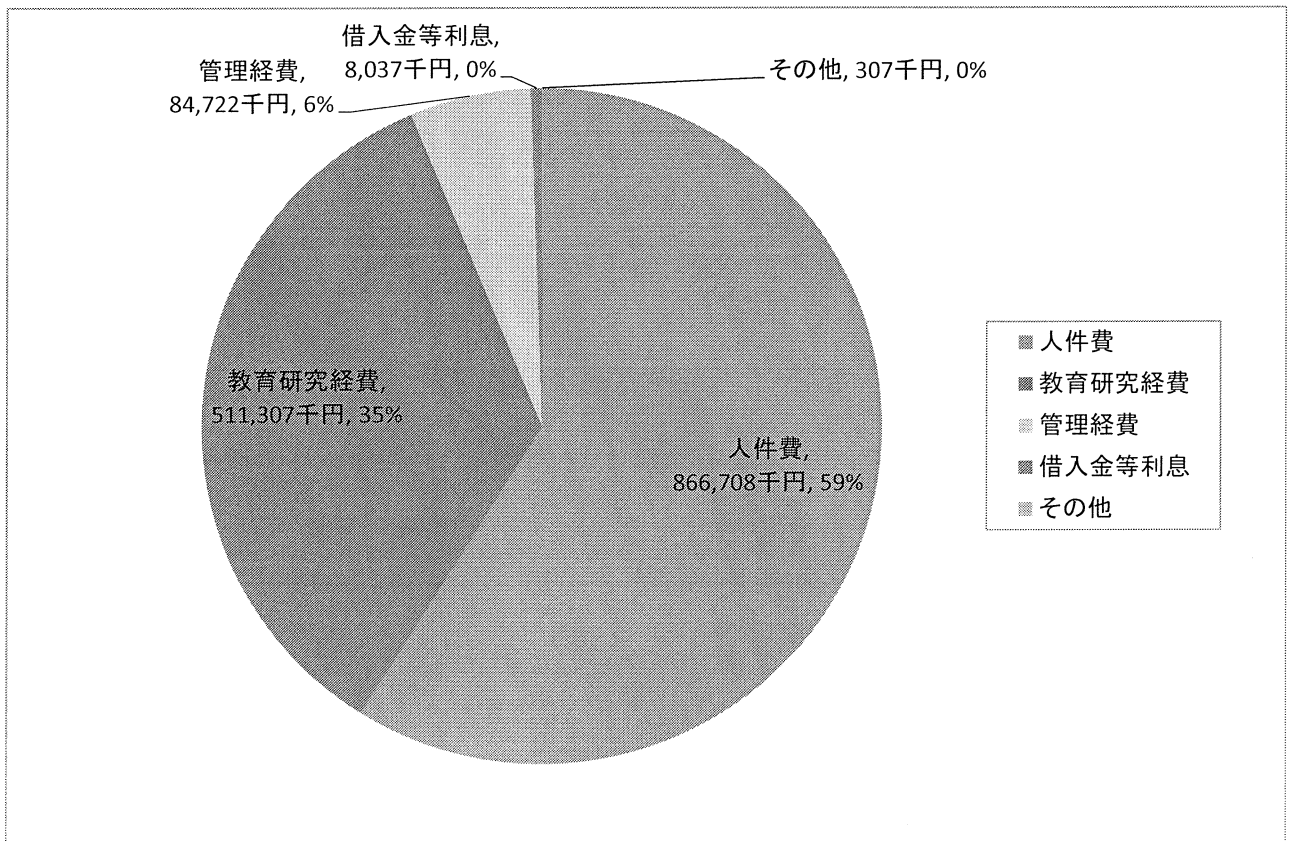
事業活動収入計	2,133,004	2,128,702	4,302	
事業活動支出計	1,474,572	1,471,083	3,489	

事業活動収支の構成比率について

事業活動収入21.2億円の構成比率



事業活動支出14.7億円の構成比率



貸借対照表[2016年3月31日]

愛真館・中高体育館耐震工事に伴う増

施設拡充引当特定資産の一部取崩しによる減

A. 資産の部

(単位:千円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	固定資産	6,705,855	6,487,427	218,428
	有形固定資産	5,612,608	4,985,246	627,362
	土地	655,685	655,685	0
	建物	4,219,693	3,602,100	617,593
	その他の有形固定資産	737,230	727,461	9,769
	特定資産	841,334	1,341,334	△ 500,000
	その他の固定資産	251,914	160,847	91,067
2	流動資産	1,163,288	808,031	355,257
	現金預金	806,728	517,264	289,464
	その他の流動資産	356,560	290,767	65,793
3	資産の部合計	7,869,143	7,295,458	573,685

長期借入金を短期借入金に振り替えたことに伴う減・退職給与引当金の再計算に伴う減

B. 負債の部

(単位:千円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	固定負債	1,049,149	1,116,252	△ 67,103
	長期借入金	284,400	335,720	△ 51,320
	その他の固定負債	764,749	780,532	△ 15,783
2	流動負債	352,889	369,720	△ 16,831
	短期借入金	51,320	51,320	0
	その他の流動負債	301,569	318,400	△ 16,831
3	負債の部合計	1,402,038	1,485,973	△ 83,935

耐震工事関係の実施及び施設関係の借入金返済等に係る基本金組入に

C. 純資産の部

(単位:千円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	基本金	10,016,175	9,459,977	556,198
	第1号基本金	9,528,834	8,972,636	556,198
	第3号基本金	287,341	287,341	0
	第4号基本金	200,000	200,000	0
2	繰越収支差額	△ 3,549,070	△ 3,650,492	101,422
	翌年度繰越収支差額	△ 3,549,070	△ 3,650,492	101,422
3	純資産の部合計	6,467,105	5,809,485	657,620

収入超過に伴う増

D. 負債及び純資産の部合計

(単位:千円)

No.	科目	本年度末	前年度末	増減
1	負債及び純資産の部合計	7,869,143	7,295,458	573,685

財 産 目 録

2016(平成28)年3月31日現在

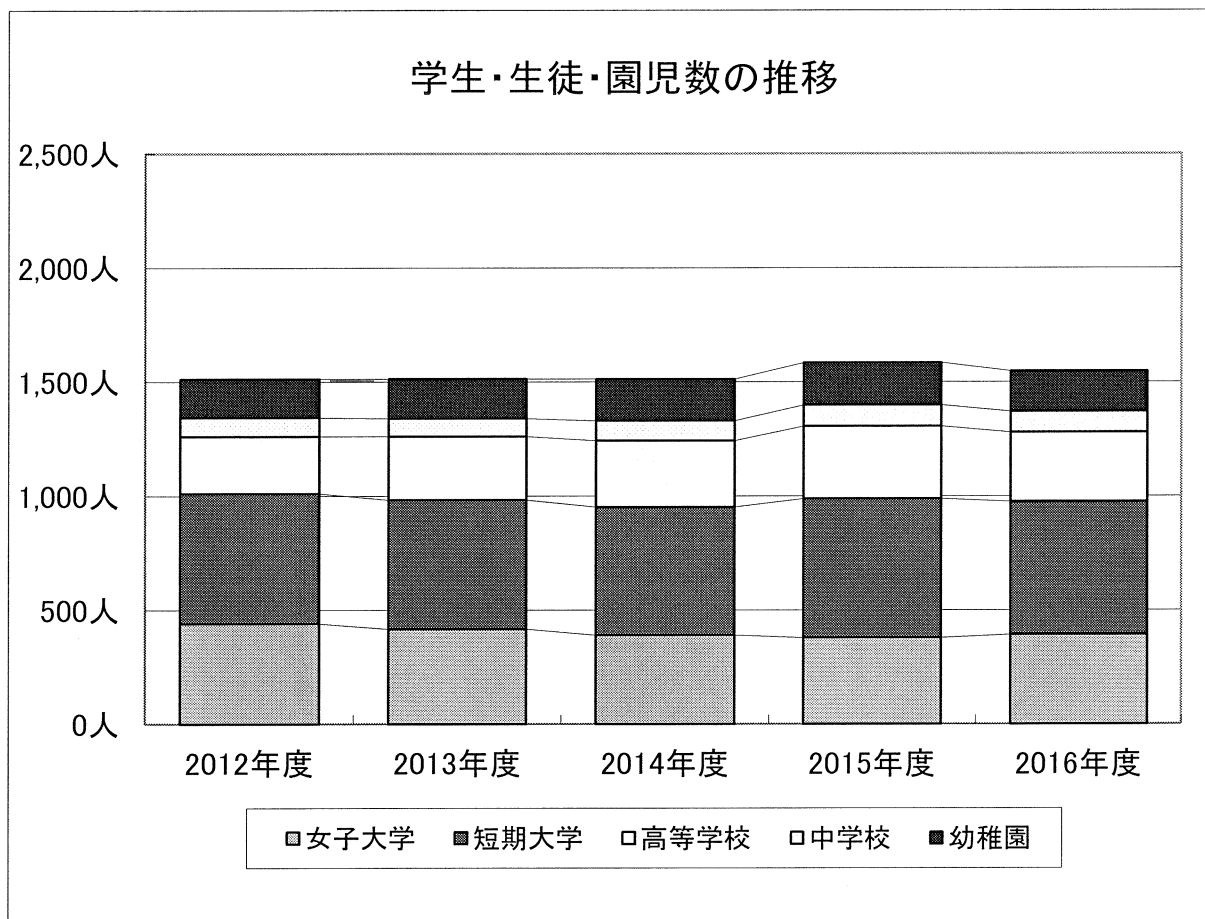
I 資産総額		7,907,276,079 円
内 基本財産		5,612,607,591 円
運用財産		2,256,535,275 円
収益事業用財産		38,133,213 円
II 負債総額		1,402,037,954 円
III 正味財産		6,505,238,125 円

科 目	数 量	金 額
一 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地		
桑原校地	33,058.00 m ²	436,353,576 円
大街道校地	27,776.77 m ²	219,331,349 円
計	60,834.77 m ²	655,684,925 円
2 建物	39,113.93 m ²	4,219,692,901 円
3 構築物	45 件	45,127,659 円
4 教具・校具・備品	28,245 点	87,515,727 円
5 図書	216,338 冊	589,841,771 円
6 車両	4 台	4,894,608 円
7 建設仮勘定	2 件	9,850,000 円
基本財産 合計		5,612,607,591 円
(二) 運用財産		
1 現金預金	32 件	806,727,648 円
2 積立金		
第3号基本金引当特定資産	3 件	287,340,885 円
施設拡充引当特定資産	13 件	553,992,913 円
計	16 件	841,333,798 円
3 有価証券	1 件	92,911,136 円
4 電話加入権	23 件	1,690,904 円
5 施設利用権	2 件	18,670,980 円
6 収益事業元入金	1 件	63,470,000 円
7 差入保証金	4 件	3,272,000 円
8 長期貸付金	3 件	71,898,630 円
9 未収入金	20 件	356,340,179 円
10 仮払金	1 件	220,000 円
運用財産 合計		2,256,535,275 円
合計((一)+(二))		7,869,142,866 円
(三) 収益事業用財産		
1 建物		13,116,113 円
2 構築物		100 円
3 預け金		25,017,000 円
収益事業用財産 合計		38,133,213 円
合計((一)+(二)+(三))		7,907,276,079 円

科 目	数 量	金 額
二 負債額		
1 固定負債		
(1) 長期借入金 日本私立学校振興・共済事業団	3 件	284,400,000 円
(2) 退職給与引当金	99 件	764,749,097 円
2 流動負債		
(1) 短期借入金 日本私立学校振興・共済事業団	1 件	51,320,000 円
(2) 前受金	22 件	229,629,500 円
(3) 預り金	14 件	59,009,267 円
(4) 未払金	6 件	12,930,090 円
合 計		1,402,037,954 円
正味財産(資産総額-負債総額)		6,505,238,125 円

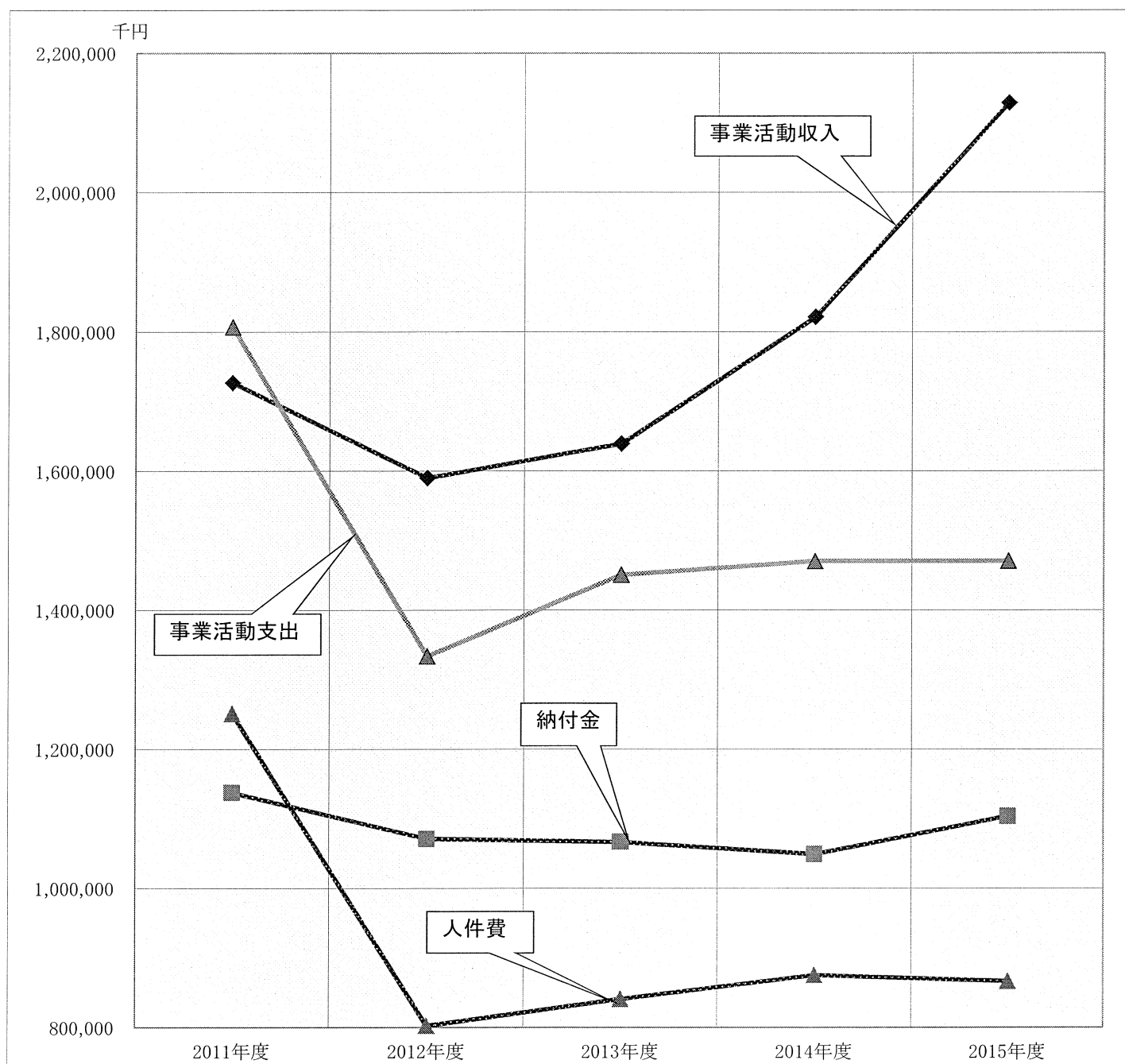
(2) 経年比較資料

①学生・生徒・園児数の推移



	2012年度 平成24年度	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度	2016年度 平成28年度
女子大学	441人	417人	390人	380人	393人
趨勢率 (%)	100.0	94.6	88.4	86.2	89.1
短期大学	570人	566人	563人	609人	584人
趨勢率 (%)	100.0	99.3	98.8	106.8	102.5
高等学校	251人	279人	290人	318人	303人
趨勢率 (%)	100.0	111.2	115.5	126.7	120.7
中学校	83人	79人	88人	93人	91人
趨勢率 (%)	100.0	95.2	106.0	112.0	109.6
幼稚園	168人	174人	182人	185人	178人
趨勢率 (%)	100.0	103.6	108.3	110.1	106.0
合計	1,513人	1,515人	1,513人	1,585人	1,549人
趨勢率 (%)	100.0	100.1	100.0	104.8	102.4

②学園財務推移資料



科目	2011年度決算 平成23年度決算		2012年度決算 平成24年度決算		2013年度決算 平成25年度決算		2014年度決算 平成26年度決算		2015年度決算 平成27年度決算	
	金額	趨勢率	金額	趨勢率	金額	趨勢率	金額	趨勢率	金額	趨勢率
A. 事業活動収入計	1,727,034	100.00%	1,590,383	92.09%	1,639,782	94.95%	1,821,631	105.48%	2,128,702	123.26%
内、学生生徒等納付金	1,137,837	100.00%	1,071,291	94.15%	1,066,939	93.77%	1,049,403	92.23%	1,103,966	97.02%
B. 事業活動支出計	1,807,025	100.00%	1,334,037	73.83%	1,451,171	80.31%	1,470,819	81.39%	1,471,082	81.41%
内、人件費	1,251,505	100.00%	802,510	64.12%	841,167	67.21%	875,388	69.95%	866,708	69.25%

※2011年度から2014年度までは、A. 帰属収入合計、B. 消費支出合計、C. 帰属収支差額に読み替える。

C. 基本金組入前収支差額(A-B)	△ 79,991	256,346	188,611	350,812	657,620
--------------------	----------	---------	---------	---------	---------

生徒数	1,535	1,513	1,515	1,513	1,585
-----	-------	-------	-------	-------	-------



監事監査報告書

2016年5月30日

学校法人 松山東雲学園

理事会 御中

評議員会 御中

監事 芝 実  印
監事 烏谷紀興 

私ども監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人松山東雲学園寄附行為第8条第2項の規定に基づき、2015年度（2015年4月1日から2016年3月31日まで）の学校法人の業務、財産の状況及び計算書類等、すなわち事業報告書、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録について監査を行いました。

その結果を以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法の概要

2015年度に開催された理事会（17回開催）、評議員会（5回開催）に出席し、理事長から業務の執行の報告を聴取したほか、重要な決裁書類等を閲覧し、学校法人の運営全般及び財産の状況を調査しました。

また、えひめ有限責任監査法人の指定有限責任社員である丸木公介公認会計士からは2016年5月20日に監査の報告及び説明を受け、計算書類等につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、事業報告書、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録の記載と合致し、適法かつ正確に法人の収支状況及び財政状況を示していると認めます。
- (2) 学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実は認められません。